独自性という世界の先端性

クロダインターナショナルコンサルティング
黒田　毅

GAFAM における独自性と創造性は、当初奇異に受け止められたのである。しかし今日それらは世界のスタンダードを構築している。これらは自己哲学という基盤が、理解の向上とともに新しい世界の創造を与えたのである。

これらは既存現実への肯定という既存日本企業の現実さえも変化させているのである。SONY が１９８０年代独自製品において時代を切り拓いたことも、独自企業哲学を有するためである。

これらは空虚でない、自己哲学の進捗という基盤が、独自性における企業をその時代の創造性という現実とともに存在するのである。

これらは自由経済システムというルールとともに、新しいベンチャーがその独自性において時代を切り開いていることも留意したい。

これらは企業の常識への挑戦が、勝利したという現実かもしれない。これらはすでに既存企業の常識は完全に崩壊しているのである。ということは、新しい企業の現実と常識が存在し、されなる未来における変化を有しているのである。

彼らの独自性は、絶対的な哲学と理解という基盤が存在するため、彼らは完全に世界を有し、受け入れられたのである。

他方においては哲学性の欠如と、現実への追随という現実がコントラストを与える。しかし企業が生き残りを求めるとき、これら現実と基準の受け入れは、絶対的な必要性である事は今日真実なのである。

これら既存現実の崩壊は、一つの戦いかもしれない。独自性と創造性は、明らかに今日の世界のコアコンピタンスを有するのである。

これらは、創造性と独自性は、新しい現実の創造を可能とする事であり、それらは独自哲学と理解が現実の創造を与えることができることを意味する。